

作成年月日	令和5年8月30日
作成部局課室名	農林水産部畜産課

神戸ビーフ供給力強化対策の推進状況

1 趣旨

国内外の神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭促進や受精卵移植による肥育素牛増産対策を推進するとともに、更なる需要拡大対策として、輸出先国の求めに見合った出荷・と畜体制の整備や国内外への情報発信の強化を図っていく。

2 令和4年度の繁殖雌牛の増頭実績

- (1) 国内外の神戸ビーフの需要に応えるため、但馬牛繁殖雌牛の増頭に取り組んでおり、令和12年度の目標は16,000頭（「ひょうご農林水産ビジョン2030」）としている。
- (2) 令和4年度の但馬牛繁殖雌牛の実頭数は13,993頭（(公社)全国和牛登録協会調査）と、前年から8頭の減少となった（表1）。
- (3) 増頭が鈍化している主な要因は、若手や法人の繁殖農家は50頭以上の牛舎整備等を行い、計画的に増頭を行っている一方で、高齢によって農家が廃業し、繁殖雌牛の廃用頭数が増えたことや、飼料価格の高止まりなどによる経営の圧迫から増頭意欲が低下し、繁殖雌牛の更新頭数が減少したためと考えられる（表2）。
- (4) 昨年度の神戸ビーフの輸出量は過去最高の78t（対前年比107%）とさらに増加したこと、また、今後は大阪・関西万博を控えてインバウンド需要などの一層回復が期待されることから、引き続きこれまでの神戸ビーフ供給力強化対策を推進する。

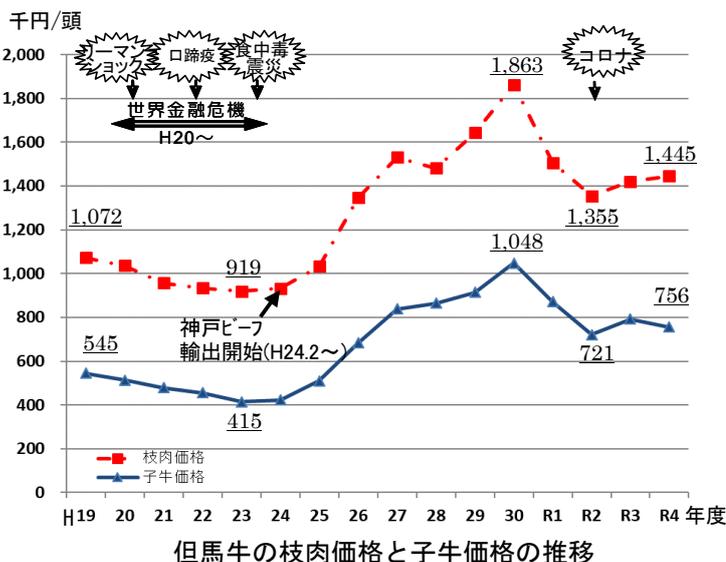
【表1】但馬牛繁殖雌牛頭数

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R12 目標
頭数	12,925	13,158	13,482	14,060	14,145	14,001	13,993	16,000
前年比	+132	+233	+324	+578	+85	△144	△8	—

【表2】年齢別の繁殖雌牛頭数と平均年齢

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
3歳未満*	2,105	2,286	2,600	2,803	2,933	2,842	2,694
9歳以上	4,706	5,062	5,212	5,316	4,853	4,370	4,028
平均年齢	7.65	7.71	7.54	7.44	7.22	7.05	6.98

*概ね15カ月令以上



【枝肉価格の動き】

- ※価格は景気、牛肉に関する事件・事案の影響を受ける。
- ① H15-19：牛肉のトレーサビリティ制度の確立により全国的に上昇
 - ② H20-23：景気低迷、口蹄疫の影響等による消費減退で下落
 - ③ H24-30：各種増頭対策の充実と総合的推進の結果、V字回復し、過去最高の水準で高値維持
 - ④ R1：和牛肉の高騰に伴う消費の鈍化により価格が低下
 - ⑤ R2：コロナ禍にあって価格が下落
 - ⑥ R3～：回復傾向に帰るとともに輸出量が過去最高を更新

【子牛価格の動き】

- ・ 枝肉価格と連動して推移し、H24以降、雌牛導入の支援の充実やブランド力強化、輸出等の総合的な対策によりV字回復
- ・ R1年度以降下落基調であったものの、直近は下げどまり、高値を維持

【今後の展開】

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、R2年度の枝肉・子牛価格は弱含みで推移したが、R3年度以降は枝肉・子牛価格がともに、緩やかに回復し、安定的に推移している。輸出量は2年連続で過去最高を記録しており、今後インバウンド観光客の増加も期待されることから、国内外において神戸ビーフの需要は底堅く、引き続き全国と比較して優位に推移すると見込まれる。

3 神戸ビーフ供給力強化対策の実施状況

(1) 繁殖雌牛の増頭促進対策

ア 新規就農者や規模拡大による牛舎整備
国や県事業等を活用した牛舎整備を支援している。

令和元年度からは1戸あたりの牛舎の平均整備規模が50頭以上となり大規模な牛舎整備が多くなっている。

【表3】牛舎の整備状況

年度	国・県事業	制度資金	平均整備規模
R1	4戸 250頭	2戸 55頭	50.8頭/戸
2	5戸 267頭	0戸 0頭	53.4頭/戸
3	6戸 321頭	1戸 40頭	51.6頭/戸
4	4戸 214頭	0戸 0頭	53.5頭/戸

イ 繁殖雌牛の導入支援

県事業や国事業を活用した繁殖雌牛の導入を支援している。

令和2、3年度は1,500頭前後に増加したが、概ね1,200~1,300頭で推移している。

【表4】補助事業を活用した導入頭数

年度	県事業	国事業等	計
R1	900頭	314頭	1,214頭
2	900頭	794頭	1,694頭
3	834頭	645頭	1,479頭
4	700頭	524頭	1,224頭

ウ 新規就農者の状況

毎年、10名以上の独立または雇用就農がある。

【表5】新規就農者の状況

年度	独立就農	雇用就農 (うち法人)	計
R1	8人	11人(7人)	19人
2	11人	5人(5人)	16人
3	3人	13人(8人)	16人
4	4人	12人(10人)	16人

エ 繁殖経営支援センターの運営支援

規模拡大者・新規就農者等の経営効率化や経営安定化を図るため、分娩直前の繁殖雌牛を供給する繁殖経営支援センターの運営を支援している。

オ 畜産参入支援センターによる参入支援

令和元年度より畜産課内に「畜産参入支援センター」を設置し、総合窓口として市町、JA等と連携して、施設用地の掘り起こしや紹介、補助事業による支援策の活用相談等を行っている。

これまでに民間企業（機械メーカー、通関業、精肉業）からの新規参入や繁殖・肥育一貫経営農家による規模拡大のための施設用地の取得が実現している。

【表6】畜産参入支援センターを通じた取組状況

年度	場所	取組形態	飼育頭数 (R4年度末)	目標
R1	姫路市	新規参入	繁殖雌牛8頭、肥育牛8頭	繁殖・肥育50頭
2	淡路市	新規参入	繁殖雌牛22頭	繁殖雌牛24頭
3	加西市	規模拡大	牧草地利用(物価状況を考慮し施設整備予定)	現在計画中
	淡路市	新規参入	繁殖雌牛7頭	繁殖雌牛20頭
4	淡路市	新規参入	廃業した肉用牛舎利用	現在計画中

カ 耕畜連携による飼料の増産

飼料高騰と循環型畜産に対応するため、耕種農家が牛ふんたい肥を活用して飼料用稲を生産。畜産農家が収穫した稲をラッピングして発酵させ、栄養価を高めた稲発酵粗飼料を給与する取組が広がっている。

【表7】飼料用稲作付け面積

年度	作付面積
R1	789ha
2	797ha
3	866ha
4	940ha



ラッピングした稲発酵粗飼料

(2) 神戸ビーフの増産対策

ア 受精卵移植による神戸ビーフ素牛の生産拡大

【表8】受精卵移植による但馬牛^{うし}生産頭数

但馬牛繁殖雌牛から採卵した受精卵を酪農家や交雑種を肥育する農家等の雌牛に移植する受精卵移植の普及を進め、但馬牛^{うし}肥育素牛の生産拡大に取り組んでいる。

年次	頭数
R1	299頭
2	366頭
3	434頭
4	488頭

※R4は速報値

イ 神戸ビーフの認定率の向上

県立農林水産技術総合センターが作成した「但馬牛^{うし}肥育マニュアル」の普及定着に伴い、肥育農家の飼育管理技術の向上が図られたことや育種改良によって、神戸ビーフの認定率は年々上昇している。

【表9】神戸ビーフの認定頭数と認定率

年度	認定頭数	認定率
R1	5,639頭	87.2%
2	6,120頭	90.1%
3	6,298頭	92.2%

【表10】「神戸ビーフ」「但馬牛^{ぎゅう}」の定義

歩留等級	「A」又は「B」														
	1			2			3			4			5		
肉質等級	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
脂肪交雑	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
ブランド	28～60ヶ月齢						「神戸ビーフ」 雌：270～499.9kg、去勢：300～499.9kg						「但馬牛 ^{ぎゅう} 」		

- ① 本県の県有種雄牛のみを歴代に亘り交配した但馬牛^{うし}を素牛とし、
- ② 繁殖から肉牛として出荷するまで神戸肉流通推進協議会の登録会員(生産者)が本県内で飼養管理し、本県内の食肉センターに出荷した牛

4 神戸ビーフの需要拡大対策

(1) 輸出拡大の取組

和牛マスター食肉センター(姫路市)が中心となって設立した輸出促進コンソーシアムが、米国・EUが要求するアニマルウェルフェアに対応しつつ、ステーキ以外の調理法のプロモーションを行い美味しさ等の特徴をPRしている。

また、同センターは海外12カ国からバイヤーを招き、全国初の和牛オークションを開催。

さらに、「ハラル認証」の基準を満たす三田食肉センターが国内で初めてサウジアラビアに神戸ビーフを輸出。

令和4年度の輸出量は過去最高の78tになり、今や世界41カ国・地域で食されている。



和牛オークション(3月25日)

【表11】神戸ビーフの輸出先と輸出量

単位：kg

地域	欧州	北米	アジア							オセアニア	その他 ^{※2}	合計
			EU等 ^{※1}	米国 カナダ	台湾	香港	シンガ ポール	フィリピン	マカオ			
R1年度	11,578	5,338	5,084	2,336	2,213	196	1,478	1,064	-	475	5,809	35,571
2	9,600	9,820	10,221	3,942	2,348	1,141	2,131	1,478	-	2,267	1,441	44,389
3	22,845	14,712	8,375	8,422	1,852	3,395	334	4,885	-	6,153	2,060	73,033
4	21,765	14,241	8,454	9,314	1,125	4,567	42	7,717	723	6,447	3,393	77,788

※1 ドイツ、モナコ、デンマーク、ベルギー、オランダ、フランス、スイス、イギリス、スペイン、イタリア

※2 メキシコ、ベトナム、タイ、ロシア、カタール

(2) ひょうごフィールドパビリオン「神戸ビーフ館」「但馬牛博物館」における情報発信の強化

ア 県内の小学生を対象とした神戸ビーフキッズセミナー

「神戸ビーフ館」(新神戸(コトノハコ神戸))において、神戸肉流通推進協議会が小学生を対象として令和4年度から継続して、但馬牛・神戸ビーフ応援大使やひょうごフィールドパビリオンアンバサダーらとともに、但馬牛・神戸ビーフの歴史や魅力を学び、体験する親子セミナーを開催している。



神戸ビーフ館でのキッズセミナー
(7月27日)

イ 世界農業遺産認定と但馬牛・神戸ビーフの情報発信

県立但馬牧場公園の但馬牛博物館では、令和3年6月に農業遺産体験館」をオープンし、同館は令和4年3月に博物館法に基づく博物館相当施設に指定された。

令和5年7月には「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」が、県内で初めて、また畜産分野で国内初の世界農業遺産に認定された。



独自の遺伝資源が保全されてきた
兵庫美方地域

今後も企画展やオンライン授業等の開催を重ね、但馬牛^{うし}・神戸ビーフの歴史や美味しさの魅力を一層広く国内外に発信し、更なる需要拡大を図る。

(3) 神戸ビーフにかかる研究とブランド管理

ア 美味しさ指標を活用した有利販売等

「美味しさ」の指標であるモノ不飽和脂肪酸^{※1}、小ザシ^{※2}のデータを県内食肉市場で収集し、生産現場、食肉流通現場に分析結果を提供するとともに、但馬牛の改良に活用している。

令和2年度から全国に先駆けて牛肉の美味しさの指標のひとつである「モノ不飽和脂肪酸」含有量を県下の主要食肉市場で表示販売し、神戸ビーフの有利販売につなげている。

※1 オレイン酸等不飽和結合が一か所ある脂肪酸で、牛肉の風味に影響

※2 筋肉内脂肪のうち細かい脂肪交雑粒子で細かなサシ

また、肥育牛の飼料中のタンパク質を低下させ、肝臓への負担や窒素排泄物を減少させる気候変動に配慮した環境負荷軽減に寄与する試験研究にも取り組んでいる。



モノ不飽和脂肪酸の測定

イ ブランド管理の徹底

神戸肉流通推進協議会が設置する「海外における神戸ビーフブランド管理・需要拡大運営委員会」において、主要な輸出先11カ国に委員を配置し、偽物等に対するブランド管理の強化と更なるPRを行っている。

また、DNA鑑定検証システムによるブランド偽装防止等も継続している。



神戸ビーフブランド管理・需要拡大運営委員授与式(3月24日)

(問い合わせ先)

農林水産部畜産課肉用牛振興班 TEL 078-362-3454